

独立行政法人 国際協力機構
 中国国際センター

Chugoku International Center
 Japan International Cooperation Agency



山口大学連携講座「国際協力論」の受講生（前列右端 今津担当教授）

JICA - 大学連携の現状と課題

国立大学の独立行政法人化、少子化の進展に伴う「大学全入時代」（2007年には大学の受験生の総数が大学・短期大学の定員とほぼ同じになるといわれています）の到来など、大学を取り巻く環境が急速に変化する中で、大学は今、「個性を發揮できるための変革」、「水準の高い研究拠点の形成」、「地域社会への貢献」など、競争力強化のために、他の大学にない特色を打ち出す必要性に迫られているといわれています。「国際化への対応」、「大学の国際展開」を特色のひとつに位置づける大学も増えており、開発途上国を含む世界の大学との間で国際交流・学术交流協定の締結を促進するだけでなく、内外の民間企業や公的な研究機関との間で「連携協力協定」を締結する動きも加速しています。

国際協力・開発援助の分野で、大学は元来人材を輩出してきましたし、さまざまな知見を提供してきました。JICAと全国各地の大学との間には、以前から、途上国からの研修員の受入事業を中心に連携協力の豊富な実績があります。大学との連携は、事業の質的な向上、援助人材の育成、地方からの国際協力事業の展開など、JICAにとって多くのメリットを生み出す可能性があることから、留学生の受入れを含む研修事業にとどまらず、国別、地域別、あるいは課題別の援助研究、調査研究への大学教員の参画から、途上国における技術協力プロジェクトの包括的な実施委託にいたるまで、さまざまなアプローチにより推進されてきました。一方、大学にとっても、例えば技術協力プロジェクトを受託し途上国で事業を展開する中で、学生のプロジェクトへの参画を実現するなど、さまざまな事業の可能性が広がるというメリットがあるものと思われま

す。このような流れの中で、これまで大学との間で、どちらかと言えば分散的に行ってきたさまざまな事業を包括的に再構築する



国際協力機構と広島大学との連携協力協定締結式
 （2005年12月14日）



吉備国際大学での青年海外協力隊特別募集説明会
 （個別コンサルティング中心のプログラム）

ことにより、事業間の相乗効果や効率化をはかり、パートナーとしての協力関係をより深めるために、JICAでは大学との連携協力協定・覚書を制度的に導入し、現在、北海道大学、帯広畜産大学、そして広島大学と「包括連携協力協定」を締結済みで、今後も連携の対象を拡大していくことが予想されます。

「大学との連携」と一言でいっても、その中身はさまざまです。従来より実施されてきた長期研修員や留学生、集団型研修による研修員の受入れに加えて、前述の援助研究・調査研究への教員の参画、途上国における草の根技術協力や技術協力プロジェクトの実施委託、現場体験を積んだJICA関係者が大学に出張講義に出向く「連携講座」、大学院生に国際協力の現場における実務実習の機会を提供するインターンシップ・プログラム、青年海外協力隊に参加する学生を対象とする単位認定制度など、多様なアプローチがあります。

JICA本部が行う包括連携協力協定の締結に加えて、JICA中国は、本年3月には山口大学経済学部・教育学部との間に連携協力覚書を締結しました。JICAが大学との連携協力協定・覚書を制度的に導入してから日が浅く、今後どのような効果をもたらすかをまだ結論づける段階ではないと言えますが、広島大学や山口大学との連携協力の実績から言えることは、少なくとも連携をめぐる議論や情報交換が活発化し、従来分散的に実施されていた諸事業を有機的に組み合わせたり、関係者間で情報の共有を図る体制が整備されるなど、すでに相乗効果が発揮されていると評価しています。

JICA 中国による大学との連携協力

援助リソースとしての大学

大学は、JICAが実施する開発援助の豊富なリソース(人材、技術・情報、研修施設等の資源)として、これまで大きな役割を果たしてきました。国際協力の対象は、広範且つ多様になってきております。JICA中国は、各大学の特色・優位性を活かした一層の連携強化を進めています。

連携のメリット

JICAは、大学との連携強化によって、国際協力事業の質の向上を図ることができます。また、地元に近いネットワークと影響力を持つ大学と連携することによって、地域でのJICA事業の理解と協力を推進できます。一方、大学側には、研究フィールドの拡充、国際協力の現場を教育の場として活用するなど、国際化促進のメリットがあります。

JICA 中国による大学との連携事業

JICA中国の主な業務は、海外からの研修員の受入と市民参加協力の実施です。後者は、青年海外協力隊等ボランティアの海外派遣、地域NGOによる海外での草の根技術協力実施の支援、学生等を対象とする開発教育(国際理解教育)支援です。右表は、これらの業務での大学連携の具体例です。大学は、国際協力人材育成の拠点としても期待されます。

JICA 中国の大学連携窓口

JICA中国の大学連携についての質問・照会は、以下のメールアドレスへご連絡願います。lwaski.kaoru@jica.go.jp(次長兼総務チーム長 岩崎)

JICA 中国による大学連携実績 (平成17年度)

事業区分	連携先大学	連携内容
研修員の受入	広島大学、県立広島大学、鳥取大学、水産大学校、岡山大学	海外研修員の受入
青年海外協力隊	広島大学	派遣隊員の単位認定
	広島大学	推薦入学制度の適用
	鳥取大学、鳥取短期大学、島根大学、鳥取県立農業大学校、岡山大学、吉備国際大学、くらしき作陽大学、新見公立短期大学、山口農業大学校、島根県立大学	特別説明会による募集
開発教育支援	鳥取大学、広島女学院大学、山口大学、広島大学、広島国際大学、椋山女学園大学、広島文教女子大学、くらしき作陽大学	出前講座の実施
	鳥取大学、山口大学、近畿大学	市民講座、講演の実施
	広島大学	JICA中国施設見学
包括連携協力	広島大学、山口大学	協定書・覚書の締結



JICA中国と山口大学教育学部・経済学部の連携協力覚書締結式(2006年3月27日)

JICA 中国・山口大学協力授業終わる

青年海外協力隊経験が強いインパクト

山口大学経済学部教授 今津 武

JICA中国国際センター(JICA中国)と山口大学経済学部、教育学部は本年3月に包括連携協力覚書に署名しました。同覚書に基づく協力事業第1弾として、山口大学経済学部でJICA協力授業「国際協力論」を開講(4月~7月)しました。本授業は(1)世界の「貧困問題」について、その現状を理解する、(2)世界の貧困の原因を議論し、そのことが私たち日本をはじめとする先進国に及ぼす影響を学習することを目標とし、15回の授業のうち5回をJICA中国からの派遣講師に担当していただき、その授業内容は下表の通りでした。

講義内容	担当
国際協力機構(JICA)の歩みと役割	宿野部 雅美(JICA中国)
技術協力の内容と課題	宇佐見 晃一(バングラデシュ専門家)
JICA国内事業とパートナーシップ(自治体、NGO、大学の役割)	辻野 博司(JICA中国)
国際協力の現場から	岩崎 薫(JICA中国)
青年海外協力隊経験者からの活動報告	水野 雅子(インドネシアJOCV)

学生達からは、「JICAについて詳しく知ることが出来よかった。先進国に住む一人として、途上国支援などにいろいろ協力したいと思った。」「山口大学の授業で、現場の仕事(JICA)の内容を話されたことは大変良い刺激になったと思います。」「国際協力の現場の苦労がよく解りました。」「私たちがどれだけモノを贅沢に使用しているのかと思った。少しでもモノを大切に使用するようし、途上国の人々のためにボランティアをしたい。」などの意見が寄せられ、途上国への理解を深め、自分たちの豊かさを感謝し、何らかの形で途上国のために協力したいとの意識を芽生えさせることができた」と評価しています。

特に、水野さんの報告は、インドネシアの挨拶の仕方を学生相手に実演するなどの工夫がされており、「講師の方は年齢も近く話も聞きやすかったし、説明の仕方も現地ですれ違った友達を通して身近なところから入り、深いところまで活動内容を話して下さったので、とてもずっと自分の中で理解することが出来ました。」「実体験を聞くことはなかなか出来ないで、すごくいい機会を得ることが出来てよかったです。」など、学生達にとり関心の高い授業であった様子がうかがえました。

このように大変意義あるかつ高い評価を得た授業でしたので、来年度以降もこの「国際協力論」をJICA連携講座として開講し、経済学部のみならず他の学部にも開放することを計画しています。

この授業は「開放授業」として学外にも開放され、7名の社会人の方が受講されました。また外務省から派遣いただいた川村真紀さんによる「日本外交とODA」の講義も組み込みましたが、その様子は外務省ホームページ(http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kaikaku/demae/houkoku_11.html)に掲載されています。



インドネシアでの隊員活動を紹介する水野講師



シニア世代も「開放授業」に熱心に参加。

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826
島根県松江市学園南1-2-1
くにびきメッセ2F
E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職 種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947
鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F
E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html

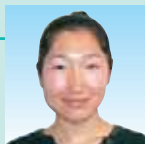


花岡 潤
青年海外協力隊OB
派遣国:パプアニューギニア
職 種:村落開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811
山口県山口市吉敷3185-1
E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職 種:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811
広島市中区中島町1-5
E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



磯村 祐子
日系社会青年ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職 種:日系日本語学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037
広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白 築 健
日系社会青年ボランティアOB
派遣国:ポリビア
職 種:日系日本語学校教師

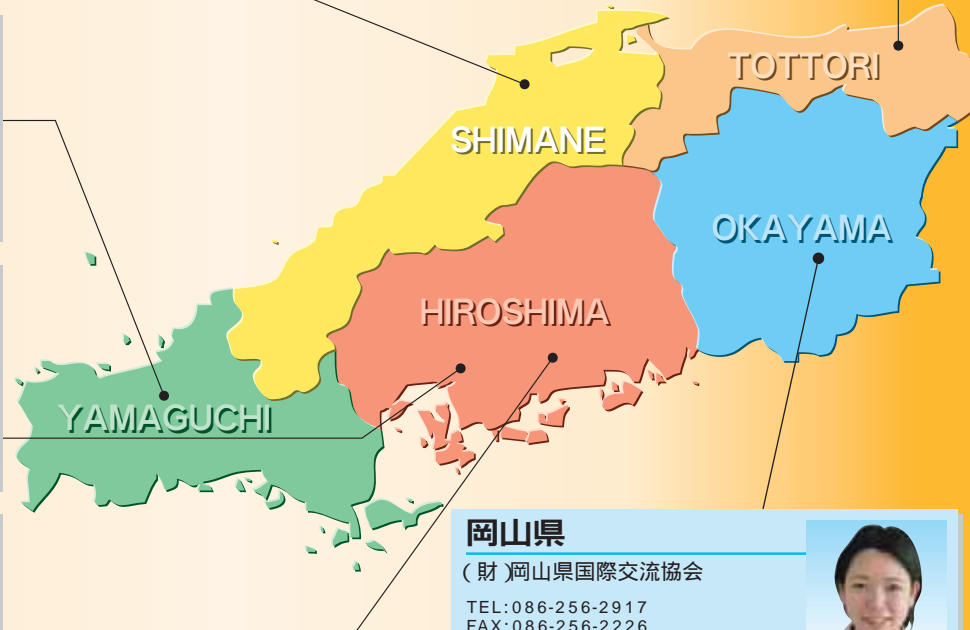
岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026
岡山市春選町2-2-1
E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



梶田三佐江
青年海外協力隊OG
派遣国:タンザニア
職 種:コンピュータ技術



～ JICAとの連携 ～

JICAジョモケニヤッタ農工大学プロジェクトとその後の大学間協力



岡山大学 農学部
副学部長 榎田 正治

JICAの「ジョモケニヤッタ農工大学(学士課程)プロジェクト」が終了したのは2000年3月であった。本プロジェクトは、1990年4月、それまでの3年制デプロマ校が4年制大学に昇格したのを受けて、学士課程の充実と発展を図るべく、京都大学の中川博次教授が総括リーダーとなって計画されたものであった。農学分野については、岡山大学の岩佐順吉教授を中心に、3学科における教官養成と講義科目の編成に深く関わった。食品化学科は岩佐教授、農機工学科は四方田教授、園芸学科は筆者(榎田)が担当した。最初の5年間は、教官の修士号取得とシラバスの作成に、次の5年間は博士号取得に向けての研究支援と教育指導体制の整備に重きが置かれた。この間、農学分野だけでも日本からは20人近い先生方が当大学に赴いて研究指導に当たり、また、日本への留学生も延べ20数名に達しており、うち岡山大学では6名の学生が博士の学位を取得した。プロジェクト終了後一年前には、日本側専門家発案による、学生奨学金「ハバロア基金」が設立された。毎年、各学科の成績優秀者3名を表彰し、奨学金が授与されている。プロジェクト終了後も、当農学部は多くの留学生、JICA研修生等を受け入れ(小生は4人)、本年6月には環境理工学部の参画を得て、ジョモケニヤッタ農工大学との間で「大学間-学術協定」を締結した。

振り返れば、デプロマ校の4年制学士課程への移行に関する調査をJICAから依頼され、時田氏(現在JICA国際協力専門員)と共にケニアに赴いたのが1990年の2月。ナイロビの澄み渡る空に咲き誇るジャカラントの花の色-そのスカイブルーが、今なお強烈な印象として残っている。



サッカーボールを手土産に。右ミチエカ学長、左筆者、時田氏、杉山リーダー



広島大学大学院
国際協力研究科(IDEC)
総括主任 中 良夫

貴方も国際協力キャリアアップに挑戦!

広島大学大学院国際協力研究科(IDEC)では、大学院博士課程前期に入学後、JICAの青年海外協力隊事業でザンビアに2年間派遣し、派遣中も正規の履修単位を取得して帰国後修士号を取得するユニークなプログラムを開設しています。貴方も挑戦してみませんか。

また、青年海外協力隊事業に参加された方には、JICAの推薦で大学院に入学してキャリアアップを図る推薦入学制度もあります。入学後は、フィリピン、タイ、ベトナム、バングラデシュ等のJICA事業と連携したプログラムで、東南アジアを中心とした海外インターンシップにも挑戦できます。博士課程後期に進学すれば、JICAの短期専門家としてガーナ等へ派遣する例もあります。

一方、IDECに在学生の半数は留学生が占めています。東南アジアを中心として約30ヶ国からの留学生を受け入れ、入学と同時に国際色豊かな環境で途上国の問題解決に取り組むためのキャリアアップ教育を行っています。

JICAと広島大学は、昨年連携協力協定を締結し、大学国際部とJICA中国国際センターを事務局として国際協力に関する相互協力を推進することとしています。貴方もIDECで国際協力に直接係わるチャンスを、是非体験してください。



ザンビアの子供たち

各県 国際協力推進員の活動

鳥取県

「国際交流・地域貢献セミナー」開催！（7/8）

鳥取大学国際交流センターの主催で、斉藤皓彦氏（福岡学院大学学長）によるケニアとの国際協力・交流活動を主とする体験講演会と、アフリカと南米に焦点を絞ったパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、元JICA派遣専門家や青年海外協力隊OVの体験談など、国際協力活動の現場の生の声を聞くことができました。

「鳥取県国際理解教育研究会」開催！（7/29）

鳥取県海外子女教育・国際理解教育研究協議会の主催で、海外の日本人学校で勤務経験のある先生方の海外事情報告および実践報告、さらにそれぞれの学校現場に取り入れるべく国際理解教育ワークショップを行いました。ワークショップでは、学校に外国の方を招いての国際交流の時間を通じて、いかに参加型体験学習につながるような授業を組み立てていくのかについて考えました。

「国際理解教育研修会」を初めて開催！（7/31）

JICA中国の主催で、主に教職員を対象とした国際理解教育研修会を鳥取県および鳥取県教育委員会の後援で初めて開催しました。青年海外協力隊現職教員特別参加制度を利用して派遣された教員による報告や、協力隊に現職参加後、積極的に国際理解教育を授業に取り入れている教員の実践事例紹介などが行われました。参加者の中には初めて国際理解教育担当になった先生方もあり、実際にどんな取り組みが行われているのかについて熱心に聞き入っていました。



参加した先生方全員で太鼓（ジェンペ）の演奏を体験しました！（鳥取県国際理解教育研究会）

鳥根県

青年海外協力隊 出発・帰国表敬訪問（6/20）

6月20日（火）、青年海外協力隊に派遣される隊員、田中奈緒美さん（中国派遣）、牛尾早帆さん（コロンビア派遣）、藤原由里さん（ガーナ）、福島克博さん（パプアニューギニア派遣）計4名、昨年12月に帰国した隊員、桑野香奈さん（ボリビア派遣）1名が県庁を訪れ、松尾秀孝副知事に面会しました。派遣される隊員へ「体調や食べ物には気をつけて行ってきて下さい」と気遣う副知事に笑顔で抱負を話す隊員達は、とても頼もしく感じられました。

「地球のステージ」第4回鳥根公演開催！（8/26）

8月26日（土）ビックハート出演にて「地球のステージ」の公演を、JICA中国、市民グループ「たいようクラブ」、鳥根県青年海外協力協会共催で開催しました。この公演では、世界52カ国で医療ボランティアとして救援活動を展開している桑山紀彦さんが、ケニア、スリランカ、南アフリカ、東ティモールなど、貧困や争いの中で生き抜く人々の明るくたくましい姿をライブ音楽と大画面の写真映像で紹介されました。鳥根での公演は4回目。入場者数は180名以上。会場は満席となり大盛況でした。参加者からは「大きな仲間の輪がどんどん広がっていくような一体感を感じ嬉しく思った」などの感想。ステージで桑山さんが語る一つ一つの声が会場に響き渡り、皆さんと共鳴し合い、「地球のステージ」を通して自分自身の考えや日常を思い返された方も多かったのではないのでしょうか。開発途上国や国際協力に興味のある方は、ぜひお話を聞かせてください。お待ちしております。



地球のステージ2006 たいようクラブメンバー

岡山県

小学校に海外研修員がやってきた！（7/14）

岡山市立石井小学校に、待ちに待ったJICAの研修員（乾燥地水資源の開発と環境評価コースの8ヶ国・9名）が訪れました。何ヶ月も前から、各クラスが研修員との交流の準備をしてきたのです。研修員たちはまず、体育館で全校生徒による歓迎の行事で迎えられ、子どもたちに手を引かれて教室に移動しました。クラス毎に交流会（七夕飾り作り・日本の文化紹介・一緒にダンスなど）を持ち、一緒に給食を食べ、学校がいつもよりもひととき大きな笑いに包まれました。最初は言葉が通じずに戸惑っていた研修員と子どもたちでしたが、次第に打ち解けて教室は和やかなムードに包まれたころにお別れの時間となりました。帰路につく研修員が乗ったバスをいつまでも追いかけて手を振る子どもたちに、「交流とは頭や技術で行うのではなく、素直な心で相手に接することなのかな」と、関係者一同感じました。また、当日は協力隊OVの通訳での参加もあり、帰国後時間が経っているにも関わらず流暢に現地語を話すOVに感心しました。みなさん、ご協力ありがとうございました。



エチオピアからの研修員との交流

100人村ワークショップと協力隊体験談を行いました。（8/9）

倉敷市立中央図書館「こどもしつ」で、夏休みの子どもたちを集めて100人村ワークショップと協力隊の体験談を行いました。いろんな学校から集まった子どもたちが仲良くワークショップを行い、マレーシアの話に「マレーシアの人の服装？学校？食べ物？遊び？」など沢山の質問が飛び出しました。世界で一番高いツインタワーがマレーシアにあることを知ると、子供たちもビックリ。世界は広いんだなあ。いろんな国や人がいるんだなあ。行事が終わると、子どもたちはいっせいに書架に行き、いろんな国のことを調べ始めました。

広島県

「知っていますか？「地球市民共育塾ひろしま」

昨年5月に発足した広島における開発教育（国際理解教育）の学習・推進団体です。JICA中国は本年度、「共育塾」と共同で「中国地区開発教育担い手連携・スキルアップ連続講座」を実施しています。中国地方の開発教育関係者の連携強化とスキルアップが目的です。第1回は7月1日と2日の2日間、JICA中国（東広島市）で開かれました。中国5県から教員やNGO関係者、学生など35人が参加。講師には、国際民衆保健協議会日本連絡事務所代表の池住義憲さんを招きました。

開発教育ワークショップを進行するファシリテーター、そのスキルアップに最も大切なことは何でしょうか？そう問い掛けた後池住さんは、巣で待つヒナにエサを運ぶ親ツバメの写真を提示しました。参加者は、頭を抱えます。残念ですが紙幅がつかまりました。続きが気になる方は、広島県担当の国際協力推進員まで問い合わせいただくか、次回の連続講座にご参加ください。

2回目は12月2日と3日、開発教育協会理事の上條直美さんを講師にJICA中国で開きます。詳しくは、「共育塾」ホームページをご覧ください。

<http://www.geocities.jp>

/kyoikujuku_hiroshima/



池住義憲さんを講師に招いた第1回連続講座

平成17年度カンボジア・スタディツアー報告書が完成！

JICA中国と（財）ひろしま国際センター（HIC）が2月に実施したスタディツアーの報告書ができました。本年度は、経費削減と資源保護をねらって製本を廃止し、電子データ（PDF）で配布しています。HICホームページから自由にダウンロードできます。

<http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/>

広島市

青少年国際交流・協力スタディツアー

／若者が異文化体験を深める

（財）広島平和文化センターは、青少年を開発途上国に派遣し、国際交流・協力を意識を深めることにより次代の担い手を育成するため、広島市内の青少年を対象に、平成7年度から毎年スタディツアーを行っています。今年も7月29日（土）から8月6日（日）まで、9名の若者がバングラデシュを訪問しました（同年度の訪問は6回目になります）。

一行はダッカ市内の「UCEP技術訓練学校」を訪れ、青年海外協力隊員の活動現場視察を行い、またダッカ市内協力隊員との夕食懇談会も企画され、交流を深めました。

その他、隣国ミャンマーに接するココスバザールも訪問し、広島市民の支援を受けて幅広いボランティア活動に取り組んでいる現地NGOの視察や交流を行いました。これら現地での様々な出会い、ふれあい、学びが、今後の国際交流・協力活動への新たな展開に繋がる事を期待します。



ココスバザールにて、プレスクールの子供達と

「国際交流・協力の日」を今年も開催します

今年の実施は、11月19日（日）10:00～17:00です（場所：平和記念公園内）。今回は63の団体が参加を表明、学びを基調としたイベントを数多く実施します。昨年好評だった世界のグッズが当たるクイズラリーも開催決定！！県外の方も、広島観光のついでにぜひお越し下さい。

山口県

国際理解教育のファシリテーターのあり方

海外の日本人学校に勤務された経験のある教員を中心に運営されている、山口県国際理解教育研究会の研究会が、8月25日に山口市内で開かれました。毎年の恒例行事になっているこの大会では、県内で国際理解教育や英語教育を実践されている教員の事例発表の分科会、実際に国際理解教育を体験する全体会、「参加型」パネルディスカッションと盛りだくさんの内容でした。インドの日本人学校で勤務された教員は、インドの挨拶や広島の紅葉まんじゅうを導入のネタに、ご自身が子どもたちに「何をどう伝えているのか」を話してくださいました。授業以外でも、インドの話は職員室で良く聞かれます。すると、他の教員も「インド」という言葉に敏感になって、「昨日、ニュースでインドが...」などと教えてくれたり...。彼のクラスの子ども達は、お互いを大切にし、モノを大切に使い、給食を残したりしないとのこと。授業中だけでなく、彼の生き方そのものがファシリテーターだなあ、と感じました。



青年海外協力隊OGによるインドネシアの挨拶紹介

技術研修の窓

JICA研修「乾燥地水資源の開発と環境評価II」への鳥取大学の取組み

同研修コースリーダー・鳥取大学農学部教授 服部 九二雄

本コースは、鳥取大学農学部及び乾燥地研究センターが持つ長年培ってきた乾燥地農業技術を乾燥地のある開発途上国の若手・中堅技術者に技術移転することが目的である。現在のコースは、平成元年から10年まで実施した「乾燥地水資源の開発と利用」をベースに上げたものである。JICAの集団研修コースとしては初めてホームページ(HP)を開設し、日本語と英語で内容紹介を公開し、カントリーレポートの書式などもHPから入手・書込み・送付できるようにしている。鳥取大学の講師メンバーも若手を中心に20人ほどで構成され、研修員の意見も取り入れて、逐次研修内容を改善するように努めてきている。

前コースを含め現在までに45カ国から162名の研修員を受け入れた。その中より8人の帰国研修員が、本学の国費留学生として再来日して修士及び博士の学位を取得している。新しく高価な機器を使った節水灌漑技術などが物資・予算の少ない開発途上国の乾燥地農業に直接適用できるケースは少ないが、研修員の持つ潜在的創意工夫能力に刺激を与え、帰国後も彼ら自身が作成したアクションプランをベースに、

自国の発展に貢献できるようなカリキュラム作成に努力している。今後はアフリカ中心にターゲットを絞り、第三国研修を含めたコース刷新を若手講師を中心に計画している。

地域別受入れ研修員

地域	前コース(10年)		現コース(8年)	
アジア	4カ国	7人	5カ国	13人
中近東	10カ国	35人	9カ国	18人
アフリカ	8カ国	14人	15カ国	40人
中南米	7カ国	28人	4カ国	7人
計	29カ国	84人	33カ国	78人

中近東：アフガニスタン、エジプト、モロッコを含む



2005年度に実施した愛知県内研修旅行
(同年度の研修員と愛知用水計画者：濱島辰雄氏(前列中央))



鳥取県内の農業現場で実習する2005年度の研修員



広げよう! 市民参加の輪

鳥根大学との連携による青年海外協力隊特別募集説明会

開発途上国で活動する青年海外協力隊の魅力を学生の皆さんに伝えよう!

鳥根県では毎年2回、鳥根大学で青年海外協力隊特別募集説明会を開催しています。この説明会は、学生を対象に青年海外協力隊の体験談を紹介することで、国際協力への魅力をお伝えし、協力隊事業への関心や興味を持ってもらうために実施しています。

前回の説明会は6月21日(水)、鳥根大学名誉教授榎野尚先生が率いる「ソロンゴ(モンゴルの子どもと手をつなぐ会)」メンバーの皆さんと共に実施しました。説明会では、青年海外協力隊でボリビアに派遣された桑野香奈さん(平成15年度1次隊派遣、職種：音楽)の講演や参加型手法を用いた国際理解ワークショップを行いました。

桑野さんは貧富の差が激しい南米ボリビアにてヴァイオリンを教員や生徒達に教えながら、「自分は音楽しか持ってなくて貧しい子ども達に何もしてあげられない」と考えた時期もあったようです。2年間の様々な活動について、「音楽でお腹いっぱいにならないけれど、それでもやっぱり心に必要なんだ」と実感を含めて語るお話、学生達も聞き入っていたのが印象的でした。また参加した18名の学生達の感想には、「自分で経験することで価値観が深まるのが分かりました」、「自分で問題

を解決するために行動していきたい」等、とても前向きな意見をもらいました。今回、企画から協力して頂いた「ソロンゴ(モンゴルの子どもと手を繋ぐ会)」の皆さんは、モンゴルの孤児院への訪問をきっかけに、モンゴルの子供たちとの交流として、毎年モンゴルワークキャンプを実施しています。ソロンゴとはモンゴル語で虹を意味し、モンゴルの子どもと日本の子どもの夢を繋ぐ虹の架け橋となるように名付けられました。活動を続ける榎野先生(愛称タクサン)は、どんな苦しい中でもあっても笑顔を忘れず生きていくモンゴルの子ども達から学んだ「生きていく力と勇気」を胸にソロンゴの輪を広げられています。こうした開発途上国との関わりを大切にしている大学の団体との連携を大切にしながら、JICA事業を鳥根県内で広げていきたいと思います。



鳥根大学での青年海外協力隊特別募集説明会

JICAボランティア・平成18年度秋募集「体験談&説明会」会場一覧表

「体験談&説明会」(所要時間 約2時間)は、参加費無料・予約不要・入退出自由です！
 詳細はJICA中国HPをご覧ください。 <http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/volunteers/index.html>

青年海外協力隊

日	程	会 場	開催時間
鳥 取	10月14日(土)	鳥取県立県民文化会館	16:30 ~
	10月25日(水)	米子市文化ホール	18:30 ~
島 根	10月22日(日)	松江テルサ	16:30 ~
	10月26日(木)	石中央文化センター	18:30 ~
岡 山	10月 7日(土)	倉敷市芸文館	16:30 ~
	10月16日(月)	岡山国際交流センター	18:30 ~
	10月29日(日)	岡山国際交流センター	10:00 ~ 17:00
広 島	10月11日(水)	広島大学大学院国際協力研究科	18:30 ~
	10月15日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	16:30 ~
	10月21日(土)	広島県民文化センターふくやま	16:30 ~
	10月24日(火)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30 ~
山 口	10月14日(土)	海峡メッセ下関	16:30 ~
	10月23日(月)	スターピアくたまつ	18:30 ~
	10月29日(日)	山口県教育会館	14:00 ~

シニア海外ボランティア

日	程	会 場	開催時間
鳥 取	10月14日(土)	鳥取県立県民文化会館	13:30 ~
島 根	10月22日(日)	松江テルサ	13:30 ~
岡 山	10月 7日(土)	倉敷市芸文館	13:30 ~
	10月29日(日)	岡山国際交流センター	13:30 ~
広 島	10月15日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	13:30 ~
	10月21日(土)	広島県民文化センターふくやま	13:30 ~
山 口	10月24日(火)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30 ~
	10月14日(土)	海峡メッセ下関	13:30 ~
	10月29日(日)	山口県教育会館	10:30 ~

お問い合わせは
JICA 中国ボランティア係りまで！
 電話 082-421-6310 FAX 082-420-8082
 E-mail: jicacic-jocv@jica.go.jp



青年海外協力隊「中国ブロック会議 2006 in Okayama」を終えて

青年海外協力隊岡山県OV会 会長 万代 コミ

中国5県の青年海外協力隊などJICAボランティア経験者(OV=Old Volunteer)が1年に1度集う中国ブロック会議。各県持ち回りで企画し、今年は岡山県がホスト。

今回、内容の柱として計画したのは、「スキルアップ勉強会」。心に届く出前講座をとの目的で、勉強会を重ねている我々の活動を紹介し、一緒に体験してもらおうというもの。他にも蒜山・大山という環境を活用したウォークラリーなどを実施。OVという共通項はあっても様々な経歴・年齢の仲間と2日間過ごす中で情報交換や交流ができました。みなさん楽しみながらも、何かみやげを持ち帰ってもらえたのではないかと思います。



国際理解教育スキルアップ勉強会



自然の中で仲良くウォークラリー

【訂正とお詫び】 Vol.12号ニュース3ページ下部の記事に、不要なタイトルが記載されておりました。訂正致しますとともに、お詫び申し上げます。

開発途上国で活躍中の 中国5県JICA ボランティア・専門家

(2006年8月末現在) ()内は、専門家内数



県 名	専 門 家	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合 計
鳥 取 県	7	10	0	0	1	18
島 根 県	11	23	5	1	0	40
岡 山 県	16	43	9	5	1	74
広 島 県	14	44	7	1	0	66
山 口 県	4	29	5	0	0	38
合 計	52	149	26	7	2	236

お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)
 TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082 E-mail: jicacic@jica.go.jp
 URL: <http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

JICA中国ニュースのバックナンバーがHPよりダウンロード出来るようになりました!!
 詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/whatscic/news.html/>

